

2017年12月14日

草の根裾野拡大に関する議論のポイント

先日実施した NGO へのアンケート結果の分析、それを踏まえた追加インタビュー（10 団体）の回答を取りまとめ、最終的に、①JICA と NGO で協議を通して検討していくべきポイント、②NGO 側で取り組むべきポイントに分けて整理しました（評価するコメントについては割愛し、疑問点・改善点に限定して掲載）。今後、それぞれについて協議を重ねていきたいと考えています。

①JICA との議論のポイント（JICA と NGO での協議を通して検討していくポイント）

テーマ	協議のポイント
<p>JICA 担当者による申請 NGO へのコンサルテーション全般（スキームにもかわる内容）</p>	<p>* 案件採択へのコンサルテーションについて =>採択を前提にしたコンサルテーション:受付けた申請書の中から評価の高い上位のものを採択し、それ以外を不採択とするのではなく、予算の範囲内で受付け、JICA 担当者が契約まで導くコンサルテーションを行うという形をとれないか。 =>不採択の後のフォローアップ:不採択であっても、次の申請時には採択されるクオリティを担保できる申請書づくりをサポートするコンサルテーションとすることはできないか。</p> <p>* 事業内容・テーマについて =>応募要領には事業テーマは幅広く取れるようになっているが、案件選定にあたって、NGO の発意（現場でニーズが高いものとして提案した案件）が尊重されるのか、あるいは日本の国別援助方針が尊重されるのか？同等に評価されるか？</p> <p>* プロジェクト期間中の活動の柔軟な変更について =>活動実施中の柔軟な活動内容の変更への対応（開始までに時間がかかることも影響している）</p> <p>* プロジェクトの延長について =>フォローアップフェーズ、フェーズ II 実施の判断基準はあるか？ =>継続が必要な案件を基準に基づいて見極め、続けられるよう担当者による柔軟な延長への判断の可能性</p> <p>* JICA 内での NGO にかかわるスタッフへの意識啓発 =>JICA 担当者のスタンスとして、NGO に寄り添って案件を形成、アドバイスしていくというスタンスがありがたい。</p>

<p>*申請～実施までの様々なプロセスの短縮化（時間と手間）の可能性の検討</p>	<p>*MOU 締結への支援 =>JICA による MOU 取り付けの支援について（役割分担など、NGO の負担を減らすことはできないか）</p> <p>*JICA による申請～実施までのプロセスの短縮化サポート =>申請から実施に至るリーズナブルなサポート、指導、アドバイス、手続きや手間の簡便化へのアドバイス =>事前申請も含め1年から1年半の期間がかかり、その間にニーズや活動内容の変更、あるいは人員計画にも影響が出る、またその間のバックオフィスのスタッフの費用も負担。何らかの形でそのプロセスを短縮する可能性はないか。</p>
<p>*人員配置の柔軟化(スキームにもかかわる内容)</p>	<p>=>3年間プロジェクト・マネージャーを変更しないという原則は難しい。プロジェクト・マネージャーの変更についてより柔軟に対応できないか。 =>リーズナブルな理由があれば、長期駐在だけでなく、出張ベース&ローカル NGO の活用も可とできないか。</p>

②NGO 内での議論のポイント (JANIC/ネットワーク NGO/ NGO で整理し改善していくべきポイント)

テーマ	コメント	協議のポイント
<p>案件形成能力強化&申請能力強化</p>	<p>*草の根申請はとてもハードルが高い印象がある。 *手続きがとても厳しく、難しい印象がある。</p>	<p>*JANIC、Network NGO あるいは登録 NGO による研修・トレーニングの開催・実施 =>全国でそのような研修にアクセスできる環境づくり =>IVY による研修をモデルとして広く全国で受講できる体制づくり</p>
<p>人員配置、人材育成のための時間と資金不足</p>		
<p>技術を持つ民間との連携</p>		<p>*JANIC、Network NGO による Global Compact や企業連携セミナーへの紹介、企業との連携の推奨</p>
<p>潜在層へのアプローチ</p>		<p>*JANIC、Network NGO による周知</p>

以上